

NOW IS.

宮城は現在も
現実に
立ち向かう。

Vol.
18
October, 2017

ナウイズ
毎月11日発行



Dragon Ash

ATSUSHI in 塩竈



友達が困っていたら
手を差しのべる。
それだけ。

島が好きで、続ける人と語り合う。

Dragon Ash ATSUUSHIさんと
塩竈市浦戸諸島へ。

「島を盛り上げたい」と話す
中学生の「友達」

NOW IS. Talk Session / in Shioyama

マリゲート塩釜から塩竈市
営汽船で30分ほど。桂島や寒風沢
島など4島からなる浦戸諸島の
ひとつ、野々島に降り立ちまし
た。棧橋ではネコがお出迎え。真
新しいチケット売り場と整備が
始まったばかりの工事現場に、傷
跡と過ぎた年月を感じます。



塩竈市立
浦戸小中学校
当日は「志教育」の講師
として浦戸小中学校を
訪れました。

一緒にお酒を飲んだりするう
ちに、謎めいた自然や歴史、人々
の魅力に取りつかれたといいま
す。そんなときに出会ったのが、
当時小学3年生の島津和人くん
でした。「向こうからオーラがあ
る人が来るなあって。話しかけら
れてびっくりしましたと和人く
ん。ATSUSHIさんは「友達
だもん」と笑います。「こっやっ
て、和人みたいな友達が増えてい
くと、友達のために何かしたいと
思うようになった。支援とか、そ
ういう気持ちじゃなくて、友達か
困ってるから何かする、ここに
いるから来る、みたいな。和人く
んも深くうなずきます。「支援して
もらってる感じはしないかな。い
つも、また来てほしいと思っ」。



子どもたちの質問に笑顔で答えていました。

「ほんとつにこの街ほど个性的
な人が多い街ってなかなかない
よ」。そう話すATSUSHIさ
んと次に向かったのは、寒風沢島
で50アールほどの農園を経営し
始めた、若手農家の加藤信助さん
の畑。「一度来てみたら、島時間か
ら抜けられなくなっちゃってと
はにかむ加藤さん。口下手で、と
言いますが、農業の話になると止
まりません。農業って、ものづく



寒風沢農園
震災があった「食」の重要性を再認識したという加藤さん。
手探りの日々は続きます。



今夏は雨が多く苦労も多かったと言いますが、ネギは
間もなく収穫を迎えます。

PROFILE

ATSUSHI
あつし



Dragon Ashダンサー。17歳
からダンスを始め、ジャンルにとらわれない踊りで
ファンを魅了する。震災後
は、写真家の平間至とともに塩竈市で毎年9月に開催
される野外音楽フェス
「GAMA ROCK」を主催。
2017年で6回目を迎えた。

と想ってくれる年代になったら
いいよね。
「6年半塩竈に通っていろん
な人に会ったけど、みんなに共通
しているのは、目の前の人をプ
ラズに続けているということだ
と思う。今日会った和人も加藤さ
んも同じ。楽しんで、必死に続け
ていると、それが島の未来につな
がるんじゃないかな。自分も、そ
れを一番大事にしている。10年
たって、おっ！ここまで来たんだ
なって見えるものがあつたらいい
と思うな。」
沼田佐和子

a walk!
this town!
この街の“今”を探る

塩竈市立浦戸小中学校

浦戸諸島の野々島で、生徒の
夢と志をはぐくむ「浦戸科」や
全校挙げての演劇活動など、
島の自然と文化を生かした独
自教育を行っています。平成
17年度に小規模特認校制度を取り入れ、浦戸4島
以外の学区からも通学が可能になりました。

寒風沢農園

寒風沢島での米づくりに携
わった加藤信助さんが独立し、
農園を開設。塩竈市唯一の農園
として、潮風のミネラルを含ん
だ島育ち野菜のブランド化を
目指しています。タマネギや長ネギ、ジャガイモなど
を栽培しています。

Islands Court(アイランズコート)

浦戸諸島の民間支援施設が平
成28年2月塩竈市中心街に
オープン。島の復興に関わる
団体の活動拠点のほか、一般
の人が利用できる島の特産品
販売スペースや、カフェなどを併設。今年9月から
寒風沢農園の直売所も開設しました。

マリゲート塩釜

仙台塩釜港(塩釜港区)の「塩
釜港旅客ターミナル」。塩竈は
日本三景松島の海の玄関口で
あり、塩竈市と松島町を結ぶ
観光遊覧船や、塩竈の離島で
ある、浦戸諸島(桂島・野々島・寒風沢島・朴島)とを
結ぶ市営汽船の発着所となっています。

塩竈市東日本大震災モニュメント

塩釜港を臨む千賀の浦緑地
に平成25年3月に建立。復興
への願いを込めた未来への
メッセージや犠牲になった
方々の名前が刻まれています。
津波の高さも記され、震災で得た教訓を風化
させないという思いも込められています。



塩竈市浦戸諸島(寒風沢島・日和山展望台からの眺望)

the 応援職員

PROFILE
塩竈市 産業環境部 水産振興課 浅海農政係
おくの みつや
奥野 満也 さん
兵庫県より塩竈市に派遣

島の未来をどう切り開いていくか。



「専門は農業土木です。寒風沢島の津波で浸水した21ヘクタールの農地の整備後における、水田での畑作栽培の富農計画を担当しています。そう話す奥野さんは、生まれも育ちも兵庫県の淡路島。兵庫県南あわじ市を退職後、兵庫県の任期付職員に採用され、平成26年4月から塩竈市水産振興課の浅海農政係に派遣職員として配属されました。



宮城大学の作物実証実験の栽培の様子。

「農政担当として、富農の基礎をしっかりと作っていきたくと考えています。例えるなら、農業が職となす種をまき、芽を出すまでのお手伝いをするということ。その後に育つていくかが今後の寒風沢島の課題です。市独自の農地バンクを活用し新規営農者を募集するなど、寒風沢島での自立可能な農業につなげたいと思っています。」

「農政担当として、富農の基礎をしっかりと作っていきたくと考えています。例えるなら、農業が職となす種をまき、芽を出すまでのお手伝いをするということ。その後に育つていくかが今後の寒風沢島の課題です。市独自の農地バンクを活用し新規営農者を募集するなど、寒風沢島での自立可能な農業につなげたいと思っています。」

Support Power



「島育ち 寒風沢野菜」の販促ツール。

記者の視点



筆者プロフィール
河北新報社塩釜支局
やまの ひろあき
山野 公寛 さん
1967年生まれ、東京都出身。
92年入社、塩釜支局。

「島の宝」浦戸小中学校の児童生徒が演劇公演

問 近に迫った演劇公演に向けて、塩竈市浦戸諸島の野々島にある小中一貫校「浦戸小中学校」の子どもたちが稽古を重ねている。今回の題名は「僕たちの夢は、神様のいたずらで」。浦戸諸島に住む若者の力に寄せる思いと心の交流を描く。タイムスリップするのが見どころだ。

仙台市の劇団「麦」主宰の熊谷盛さんが演技を指導する。「どのようなのかな、考えてごらん」「もう一回！」。真剣な指導で動きが見違えるように良くなる。学校行事にとどまらない本格的な活動に憧れて入学する子どももいる。

演劇公演は学校独自の教育課程「浦戸科」の学習の一環で、今回で14回目。島の自然、風土、文化をテーマに教員がオリジナル

脚本を手掛ける。菅原利裕校長は「自分、そして浦戸の魅力を見、発信する。子どもたちはここでできない学習をしています」と、演劇活動の意義を話す。

児童生徒42人のうち浦戸諸島に住むのは2人だけ。学区外でも受け入れる特認校制度に基づき、40人が船に乗って島外から通う。地元の子が少なくても、東日本大震災の津波で甚大な被害を受け、人口減と高齢化が進む離島にとっては、宝に違いない。「まるで自分の子どものように温かく包んでもらっている」と菅原校長は感謝する。

住民は10月22日に学校文化祭で披露されるのを楽しみにしている。27日には、塩竈市遊ホールで一般向けの公演がある。子どもたちの演技に乞うご期待。

地域防災のヒント

1 避難所でも女性の視点を大切に！

災害時には、避難所での授乳場所や衛生用品の確保、家庭での食料備蓄など、女性ならではの気付きが役立ちます。女性も積極的に防災活動に参加し、その視点を生かしましょう。

2 まずは自助。次に共助を考えよう！

自分や家族を支える自助は最大の助け合い。それができたら、ご近所への声掛けや差し入れなど、共助を考えてみましょう。大変な時は「助けて！」と声をあげることも大切です。

いわきり防災エンパワーメントの活動を支える！
「岩切・女性たちの防災宣言2015」

岩切地区の女性たちが策定した宣言。女性ならではの視点で、備蓄の大切さ、自助・共助の重要性をやわらかい文章で呼びかけています。宣言は岩切地区全戸に配布。住民同士手を取り合い、災害への備えを人任せにしないよう訴えています。



【取材協力】

いわきり防災エンパワーメント 菅野 澄枝 さん
「岩切の女性たちによる防災宣言をつくる会」代表。仙台市地域防災リーダー(SBL)として、地域防災講座の講師などを務める。

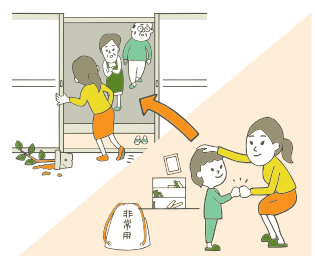


【お知らせ】

「いわきり防災エンパワーメント」では、防災関連イベントの講師等の依頼も受け付けています。詳しくは080-1850-4179(菅野)までご連絡ください。

女性目線で地域防災を考える！

防災活動は男性主導になりがちですが、大切な人を守り、安心して暮らせる街づくりのためには女性の視点も必要です。地域防災の意識向上を目的とした仙台市岩切地区の団体「いわきり防災エンパワーメント」の活動基盤となっている岩切女性たちの防災宣言2015から、地域防災のヒントを考えます。

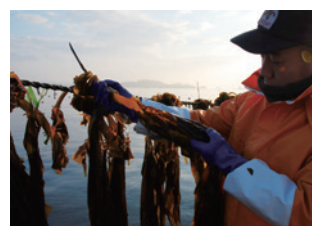


NOW IS.

防災

宮城県各地で行われている防災・減災の取り組みから、日々の備えに生かせるヒントを探していきます。

漁師の「目利き」を 活かして、 良い商品を生み出す。



(上)女性をターゲットに、パッケージやデザインにもこだわった商品。
(左)粘りが強く、食べやすいのが特徴。お好みのタレで、ごはんやスープ、サラダやパスタと汎用性抜群の海藻です。
(右)赤間さんの原点、ワカメ漁。冬になると、早朝から作業に繰り出します。

食べてもらうことが
海を守ることにつながる。

赤間さんが社長を勤める「シーフーズあかま」では、ワカメの養殖のほか、ワカメやメカブ、ギバサ、アカモクなどを使った商品を製造販売しています。「漁師としてだけでなく、商品開発も始めるようになって、29年目になります。規格外で出荷できないワカメを加工して売ったのが最初です。市場ではB級品でも、味はいい。松島湾のワカメは口当たりがよくて柔らかく味深いのが特徴で、サツと茹でたてを食べるのが一番おいしいです。

赤間さんが今、力を入れているのが「アカモク」の活用です。「アカモク」は、浅海の栄養塩と、ある程度の海流がある内湾と外洋側に自生する、いわば「野草」のような海藻です。漁や養殖の邪魔になることから、漁師には嫌われていました

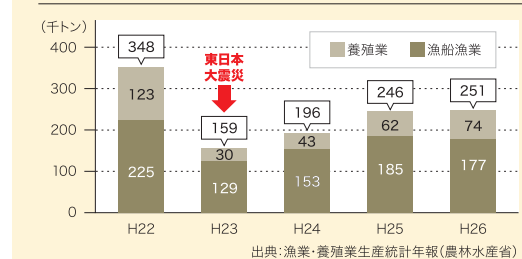
が、「アカモクのポテンシャルはすごいんですよ！」と赤間さん。「食物繊維が豊富で、ミネラル分も驚くほど含まれています。女性の方に喜ばれる機能性が多いんですよ。ネパトロ×シャキシャキ食感で、酒のアテや洋食との相性もよくて、東京や仙台の居酒屋やレストランでも出してくれるようになってきました。

一方、アカモクは質の管理が重要だと言います。「一年生の海藻なので、おいしい時期を逃すとかたくなっちゃうんです。その見極めが、漁師の腕のみせどころ。「内湾は1月頃、外洋側は5月頃が粘りも色も抜群、中でも根を張ったキレイなアカモクを厳選しています。品質がいいアカモクを探すには、コツがいるんです。いつも海にいる漁師だったら、難しい目利きじゃないんですが、これまで誰も「資源」だと思って見てこなかった。これからは『良いアカモク』を収穫できる人を増やすのが、大切だと思いま

す」。大手スーパーやコンビニエンスストアからも引き合いがあるというアカモク。需要に対して、いかに安定した生産を持続できるかを、追求し続けます。

岩手アカモク生産協同組合と連携して「アカモクプロジェクト」を立ち上げ、地域を越えてアカモクの魅力発信を行い、食べ方などを紹介した冊子「アカモクブック」をつくるなど、普及や食育の取組を続けています。「将来的にはアカモクの養殖も視野に入れていきたい。海藻を養殖すると、海の循環がよくなり、水質がよくなるんです。需要が増え、海藻を育てられるようになれば、海にとってもメリットがある。これまで知られていなかった海の環境や資源を知ってもらって、日頃から食べてもらえるようになれば、地域の自然を守ることににつながるんじゃないかな、と思っています」。松島湾の良さを全国に伝えたい。赤間さんの挑戦は続きます。

県内の漁業生産量の推移



PROFILE

株式会社シーフーズあかま/アカモクプロジェクト

あかま しゅんすけ

赤間 俊介 さん

祖父の代から続く漁業でわかめやアカモクを生産する漁師。株式会社シーフーズあかま代表取締役。2014年には(社)東の食の会、岩手アカモク生産協同組合と連携し「アカモクプロジェクト」を立ち上げ、若手漁師の団体に所属し、現在はフィッシャーマンズリーグで食育部門のわかめリーダーを務め、子どもたちへの食育活動を積極的に行っている。

01 宮城県東部被災者転居支援センターを開設しました。

10月から、新たに石巻市内に宮城県東部被災者転居支援センターを開設しています。

本支援センターでは、応急仮設住宅の供与期間終了に向けて、住宅再建方法が未定の入居者に対し、市町から提供される入居者情報などに基き戸別訪問による相談支援を行うほか、各世帯に応じた福祉サービスなどの紹介を行っています。

ご利用を希望される方は、被災当時お住まいの市町村の被災者支援担当課などへご相談ください。



県震災援護室
☎:022-211-3257

02 震災復興パネル 2017

県では、県内の復興状況や復興に向けて取り組む方々を紹介するパネルの貸し出しを行っています。ご希望の方は、下記問い合わせ先までご連絡願います。

[仕様等]
サイズ:A1
枚数:10枚
貸出料:無料
送料:利用者負担

詳細は
みやぎ復興情報ポータルサイトで検索

県震災復興推進課
☎:022-211-2443



MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!

<http://www.fukkomiya.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ



いわたかれん
復興フォト
岩田 華伶

仙台市出身の女優。AKB48を卒業し、被災地の「今」を伝えたいと写真の勉強を始めた。



これまでの被災地訪問は80回を超える岩田さん。「写真」に願いを込めて、月1回被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは仙台市。今年から一般公開された震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪れました。

NOW IS. 復興インタビュー

このブログでは、被災地で復興に向けてさまざまな取り組みを行う団体などを紹介します。

NOW IS.取材チーム

今なお復興への道筋を歩む被災地の「現在」と「現実」を伝えたいと、日々被災地をめぐっています。

@石巻市雄勝町

石巻市雄勝町で伝統芸能を伝えている「伊達の黒船太鼓保存会」会長の神山正行さんと、事務局の四倉由公彦さん。震災で被災しながらも、伝統を守り、継承し、続けていく…その活動をご紹介します。



詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信!復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiya」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(休日のときは翌平日)にメールでお知らせします。NOW IS.メールマガジン で検索して登録!



寒風沢ブランド戦略

「戦略はたくさんある」。今回応援職員でご紹介した、奥野満也さんの最も印象に残った言葉です。6次化に向けて、メーカー協力のもと試験栽培したジャガイモで焼酎を作ったり、椿油をバニラアイスに入れてみたり、試食品のアイデアは尽きません。「チャンスをいかに活かしているか、これからの正念場」とも話していました。今後、どんなものが商品化されて世に出るのか、とても楽しみです。



Vol.
18
October, 2017

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は^{いま}現在も
^{いま}現実に
立ち向かう。

NOW IS.



海の可能性を 商品にのせて。

3代続く漁師の家。赤間さんは中学生のころから船に乗り、ワカメの養殖を手伝っていたと言います。「気持ちいいですよ、海。若いときは陸で仕事をしていたこともありましたが、やっぱり戻ってきました」。

27歳の時に震災が発生。山側にあった工場は浸水を免れましたが、船は3艘、流されてしまいました。

「この時もやめるって発想はなかったですね。翌月には新しい船を発注して、8月には進水式をやりました」。そのスピード感はどこからうまれるのか、聞いてみると「うーん、やってみないと分からないからですかね。代々、なんでもサツとやっちゃう社風なんです」と笑います。

株式会社シーフーズあかま
赤間俊介